

宮・高泉・葛西・上遠野〔かどの〕・保土原・福原のもと独立大名10家。一族は大立目・大町〔胆沢郡金ヶ崎〕・大塚・大内・西大条・小原・西大立目・中島〔江刺郡上口内〕・宮内・中島〔伊具郡金山〕・茂庭・遠藤〔胆沢郡下衣川〕・佐藤・畠中・片平・下郡山・沼辺・大町〔宮城郡中野〕・高城・大松沢・石母田・坂の22家。このほか政宗時代の一家だった原田〔甲斐〕・砂金・大窪・志賀等の諸氏は後に断絶した。

資料 貞山公治家記録巻之2

宮城県史第2巻

29. 「伊達騒動記」(山路愛山)の出版年

問 貴館の「郷土資料目録」3によれば、山路愛山著「伊達騒動記」の出版年が明治34年となっている。私は大正3年発行のものしか見ておらず、それが初版だと思っていたが、それらの内容は同じものなのでしょうか。

答 「伊達騒動記」は、明治34年民友社から初版、〔残存少なく県内では当館のみ所蔵〕が発行されました。このことは筑摩書房発行の「明治文学全集」35及び「現代日本文学大系」6の山路愛山年譜にも記されています。大正3年発行のものは、敬文館から2冊本として出版されたもので、内容は勿論同じです。歴史家の中にさえ、明治34年初版発行の事実を知らず、「伊達騒動記」は大槻文彦の「伊達騒動実録」(明治43年発行)の焼き直しに過ぎないと、その資料価値を無視してきた向きもあったのは間違いです。「山路愛山」(松島栄一、「日本の歴史家」永原慶二・鹿野政直編著の内)にも次のように記されています。『1901年〔明治34〕には、……単行本として「読史論集」を4月に、「伊達騒動記」を7月に、それぞれ民友社から発行している。……伊達騒動記における批判的な姿勢は「伽羅千代萩」(めいぼくせんはいはぎ)的脚色を排し、さらに通俗の考えに対しても、一つの逆説的批判を提出しようとしている点でも、注目すべきであるといえる。』

注(1) 元治元年〔1864〕江戸に生まれた。本名弥吉。国民新聞などの記者として卓抜な論筆を揮い、極めて異色ある史論、文学論をあまた発表した。著「足利尊氏」「現代金権史」「伊達騒動記」ほか多数。大正6年〔1917〕歿、54才。

資料 仙台市民図書館郷土資料目録3

伊達騒動記(山路愛山)

明治文学全集35(筑摩書房)

現代日本文学大系6(筑摩書房)